

05/1/29 (A)

討論上

原子力の是非をめぐる議論が沸騰している。原発反対の声がかつてなく高まっている一方で、政府・産業界は推進路線を堅持している。原子力をどうするかは、最終的には国民が決めることであるが、賛否の間で揺れている層も少なくないのではないかと。そこで、立場の異なる二人にインタビューし、それぞれの内容を二週続けて掲載することにした。先に登場願ったのは反原発運動の情報拠点となっている原子力資料情報室代表の高木仁三郎さん(50)。高木さんは「日本も原子力抜きでやっていきます」と語り、大量消費型文明から転換していく必要性を強調した。

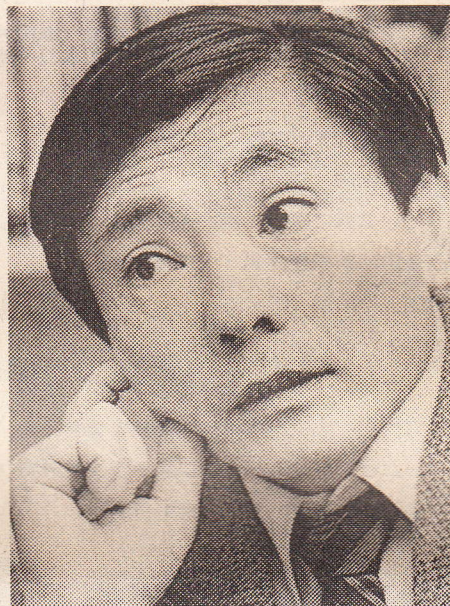
聞き手 清水洋一・科学部長

まず、最近の反原発運動については、食べ物の汚染があったからで、実際に運動のネットワークを見ても食べ物の広がった要素は、やはりチェルノブイリ原発事故による食料汚染でしょうね。それによって、遠い問題だと思ってい

高木さん これだけ運動が広がった要素は、やはりチェルノブイリ原発事故による食料汚染でしょうね。それによって、遠い問題だと思ってい

また、最近の反原発運動したのは食べ物の汚染があったからで、実際に運動のネットワークを見ても食べ物の広がった要素は、やはりチェルノブイリ原発事故による食料汚染でしょうね。それによって、遠い問題だと思ってい

原子力資料情報室代表 高木仁三郎さん



撮影・渡部 聡

高木 仁三郎氏(たかぎ じんざぶろう)1908年、前橋市生まれ。東大理学部化学科卒。日本原子力事業勤務を経て65年東大原子核研究所助手。69年都立大助教授。73年都立大を退職。現在、原子力資料情報室代表。著書は「プルトリウム」の恐怖(岩波新書)、「いま自然をどうみるか」(白水社)、「原発事故、日本では(岩波ブックレット)」、「チェルノブイリ、最後の警告」(七つ森書館)など。

名運動を始めたんです。こういふかたちで、原子力は本当に必要なのか、日本のエネルギーをどうしたいのか、環境を守っていくために、新しい産業のあり方、暮らしのあり方は?といった議論を国会内に提起したい、と考えたわけです。法案の趣旨は、原発計画はただちにやめる、既存の原発も一定期間内に全部廃止しろというものです。その期間は、核燃料の抜き取りとか廃棄物とか技術的検討

原発 いまがやめどき

高木さん やっていきま

高木さん やっていきま

高木さん やっていきま

高木さん やっていきま

う手当をすれば、一定の供給予備率を持って電力をまかなえる。我々の分析ではそう言えます。さらに夏の電力消費のピークを少しずらす工夫をすれば、十分な余裕ができます。ただし、火力をつぶして原子力をつくる、といった

高木さん やっていきま

高木さん やっていきま

高木さん やっていきま

高木さん その考えがわかり。反原発の側にも部分的に間違いや誇張はあり得るでしょうが、それは本質的な問題ではない。全体として脱原発、反原発という考え方が間違っているとか、あらぬ情報に基づいてやっているというところえ方で対処したら、これは大間違いです。(政府は)その点が間違っているから、国民の声を正しい対応ができない。キャラバンはあまり大衆の支持を得ていないように思えますね。

—原発なしに日本はやっ

高木さん やっていきま

高木さん やっていきま

のマイナスのはね返りは一時には覚悟しなくちゃいけない。それでも原発廃止によって得られる安心の方がはるかに大きいし、長い目で見れば

「なくても大丈夫」

大量消費文明の転換を

経済的にもその方が望ましい。これから緻密な検討をする必要はない。火発の寄与は二〇％以下です。それに火発を原子力で置き換えるといっても、全

部を置き換えるのは出力調整その他の問題があつてどうも無理で、顕著な効果は期待できない。そのうえ、原発が子力を出さないから、むしろクリーンだとも言われています。

高木さん これには放射性廃棄物を出してながクリンだと言いたくなりますが、温室効果の問題に絞ってみても原発による効果はあまり期待できない。なぜなら温室効果はフロン、メタンなどのガスにもあつて、二酸化炭素の寄与率は数十％。しかも、二酸化炭素は火力発電所だけが出しているわけではない。自動車はじめ、化石燃料を使つてあるところを出している。火発の寄与は二〇％以下です。それに火発を原子力で置き換えるといっても、全

3面に続く



1面から続く

— 反原発の理由は？

高木さん 第一に大事故の可能性が消し切れないこと。日本がチェルノブイリと炉型が違つか、運転管理がしっかりしていると言いますけど、そういう言い方は信用で

絡むことによつて事故が起るということが多い例で見られます。特に僕が将棋倒し事故と呼んでいる、ある一つのことが引き金になつて次々にいろんなことが起つてしまつていふような現象は、いまの技術では防ぎにくい。だから事故の可能性を我々が安心できるほどに小さくは、と

ない、と思ひますね。日本の原発も最近、トラブルが多いでしょ。その背景には老朽化がある。もう十数年たった原発が増えてきて、潜在的な条件が悪くなつた。なにか大きな刺激が入ると、ばさつといふ技術では防ぎにくい。だから事故の可能性を我々が安心できるほどに小さくは、と

る。日本こそ原発を早くやめなかつては、とこのアルメニア大地震でつくづく思ひました。脱原発は緊急の課題です。事故のほかに、

高木さん 廃棄物が大きな問題ですね。基本的には、捨てる立場なのに、なかなかデータを公表したり、安全その他をチェックする仕組みが欠けているんです。だいたい、この国でも第三者的審査をする機関があつて、的なお金がついている。そういうものを育てようという運が社会にもある。日本に全くないですね。



◆ 高木仁三郎さんに聞く ◆

「脱原発法」
制定運動

政府の暴走に歯止め

い事故は起り得ることを考える。非常に恐ろしい。そういうことが世界でたった一つ起つたのを耐えられないから、これは確率論を超えてるものだと思います。

— 多重防護の安全設計、きびしい運転管理などではないですか。

高木さん 十分な保証ではない、と思ひますね。日本の原発は、無理な運転をしなければならぬ。原発をどう思ひますか。

高木さん 一番の問題は、国民の側に無知があるから反原発の運動が起る、という悪い態度だ、と思ひます。脱原発はいま世界各国が選んでいる道なのにね。それから政府と電力会社が同じくしていく運動でもありません。

きない。どの国でも事故が起るその日の朝までは、自分の国では起らないと思ひつてゐる。そういう建前であつてますからね。人間のつうつたシステムだから完全ということはない、人間が

て高稼働率で、無理な運転をしなければならぬ。原発をどう思ひますか。

高木さん 一番の問題は、国民の側に無知があるから反原発の運動が起る、という悪い態度だ、と思ひます。脱原発はいま世界各国が選んでいる道なのにね。それから政府と電力会社が同じくしていく運動でもありません。

高木さん 十分な保証ではない、と思ひますね。日本の原発は、無理な運転をしなければならぬ。原発をどう思ひますか。

高木さん 一番の問題は、国民の側に無知があるから反原発の運動が起る、という悪い態度だ、と思ひます。脱原発はいま世界各国が選んでいる道なのにね。それから政府と電力会社が同じくしていく運動でもありません。